

Spire_M

P.2 レコードの楽しさを探る Part2

編集部

P.6 うたの潮流 第2回 岡野貞一

唱歌・童謡研究家 竹村 忠孝

P.12 オカリナを使った授業実践

名古屋大谷高等学校教諭 大野 芳敬

P.15 編集部からのお知らせとお願い

中学・
高校版





皆

さんは、アナログレコード（以下レコード）の音を聴いたことはあるでしょうか？筆者は1970年代からレコードを聴き始め、CDが登場してからも1990年代までは、主にレコードを楽しんでいました。しかし、自宅のレコードプレーヤーが故障したことがきっかけで、音楽鑑賞といえばCDがメインになりましたが、最近はCDショップへ行くと、レコードが並んでいるのをよく見かけます。また、前号「Spire_M 2016年秋号」では、レコードの製造工程のひとつ「カッティング」を紹介しました。「カッティング」とは、レコードに記録されている音溝を記録することですが、この取材の際に聴いたレコードの音は魅力的で、自宅でもまたレコードを聴きたいと思うようになりました。

さて、このレコードを再生する機器はレコードプレーヤーです。レコードプレーヤーはターンテーブルやトーンアーム、フォノカートリッジなどが一体となっていていますが、今回はレコードに記録されている音溝から音を取り出し電気信号に変換する役割を担う、フォノカートリッジに注目してみたいと思います。



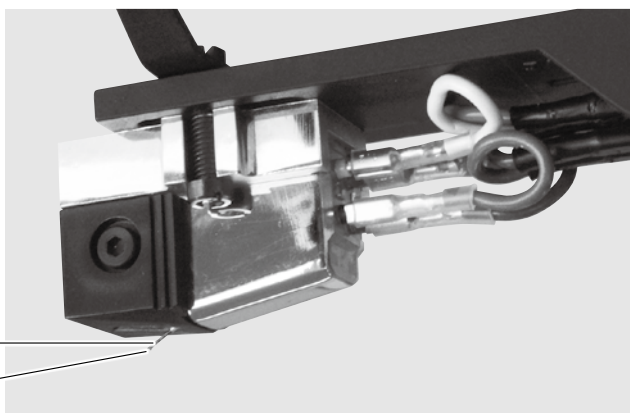
トーンアーム

ターンテーブル

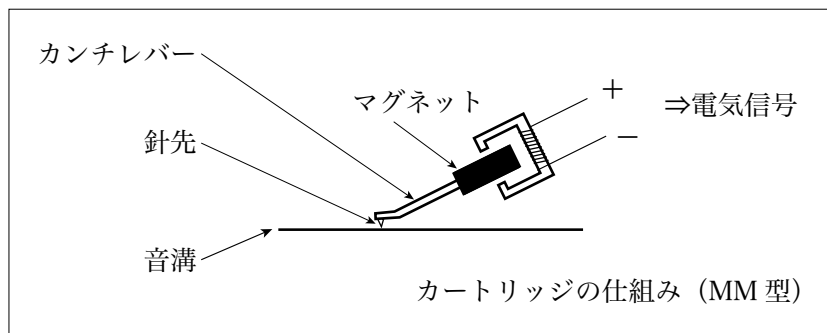
フォノカートリッジ

フォノカートリッジを
拡大したところ

カンチレバー
針先



カンチレバー
針先
マグネット
音溝
+ ⇒電気信号
-
カートリッジの仕組み (MM 型)



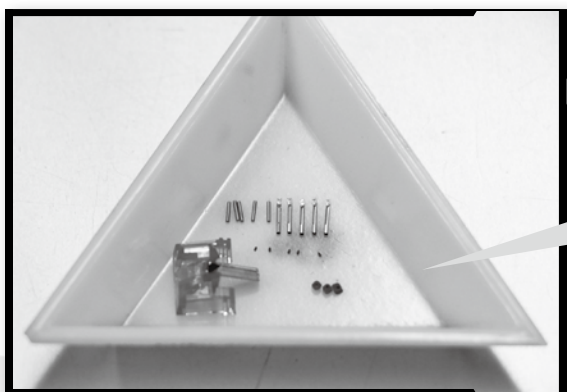
さて、レコードはフォノカートリッジにある針先をレコードの音溝にのせて音を再生します。針先が音溝をトレースすると、針先やカートリッジ本体などがシャカシャカと鳴るのが聞こえます。この振動で針先が取り付けられているカンチレバーやマグネットも共鳴し、コイルを介して電気信号に変換され、オーディオ機器で再生が可能になります。この、レコードに記録されている音溝に接触する唯一の部分である針先は、その多くがダイヤモンド製で、製造には高度の加工技術が必要なのだそうです。この、フォノカートリッジの仕組みについて詳しく知るため、長年にわたりレコード針やフォノカートリッジなどを製造している株式会社ナガオカさんへ取材させていただきました。



山形県東根市にある株式会社ナガオカ本社

ナ

ガオカさんでは、1947年からサファイア針の製造を、1973年からはダイヤモンド針の製造を開始し、現在ではフォノカートリッジや、レコードクリーナー、スタイラス（針先）クリーナーなど、さまざまなレコード関連の製品を生産しています。そういえば筆者もレコードを聴いていた頃は、これらにお世話になりました。さて、フォノカートリッジがどのように作られているか、製造工程を見てみましょう。



レコード針の部品の一部の写真。針先（人工ダイヤモンド製）、カンチレバー、ダンパーゴムなど。とても小さな部品を手作業で組み立てていきます。

針先をカンチレバーに取り付けます。顕微鏡をのぞきながらのミクロな手作業で行います。写真では小さくて見にくいですが、ピンセットの先で針先を持っているところです。



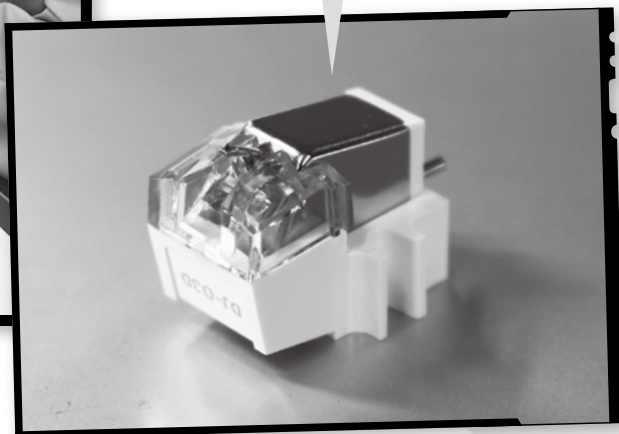
カンチレバーを器具で固定し、針先やダンパーゴム、マグネットなどを取り付けます。

カートリッジ本体のケースの内側に付いているコイルと端子を半田付けしています。とても小さなスペースに並んでいる4本の端子に、コイルの大変細い銅線を半田付けするという、繊細な作業。

カートリッジ本体にレコード針を取り付けて完成！



完成したフォノカートリッジは、1本1本全て再生チェックを経て出荷されます。



取材協力…株式会社ナガオカ

住所：〒999-3716 山形県東根市大字蟹沢 1863-6 TEL：0237-42-1135

URL：<http://www.nagaoka.co.jp/index.html>

写真協力（レコードプレーヤー）…DENON

うたの潮流

作家の足跡とともに辿る
日本のうた

第2回 岡野貞一 [1878-1941]

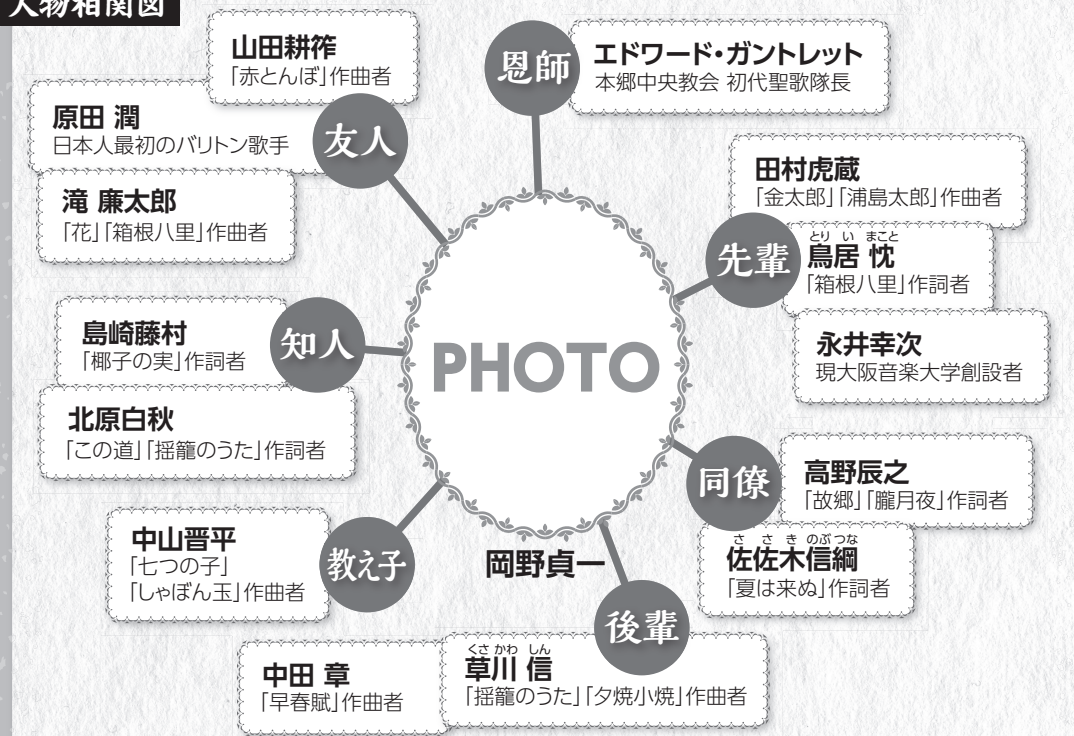
岡野貞一は、若くして亡くなった滝廉太郎とともに、美しい日本の情景を描いた詩を損なうことのない曲づくりを目ざした。また彼は、高野辰之の詩が表現する美しい自然の風景が、日本中の誰が聴いても目に浮かぶような旋律をつくることに、心血を注いだのであった。

関東学院大学・法政大学講師
唱歌・童謡研究家 竹村 忠孝

index

1. 岡野貞一の生涯
2. 明治の唱歌と日本語の語調
3. 本郷中央教会と初代聖歌隊長エドワード・ガントレット夫妻
4. 東京音楽院の教授に岡野貞一、山田耕筰ら
5. 文部省小学唱歌教科書編纂委員、
「故郷」「朧月夜」誕生
6. 対訳「故郷」「朧月夜」

人物相関図



写真提供：わらべ館

1. 岡野貞一の生涯

岡野貞一は、明治11年（1878）鳥取市古市（ふるいち）に生まれた。8歳年上の姉一人と両親の4人家族の長男。岡野家は士族であったが、貞一が7歳の時に父親が亡くなった。姉の影響で日本キリスト教団の鳥取教会に通うようになると、4歳年上の永井幸次（大阪音楽学校〈現大阪音楽大学〉の創立者）がいた。姉が明治22年に洗礼を受け、3年後の明治25年に貞一も14歳で洗礼を受けクリスチャンになった。翌年、姉が岡山教会の日本人の牧師と結婚していたため、15歳の貞一と母親は、姉を頼って岡山へ移った。岡山教会の宣教師アダムス女史から貞一は賛美歌とオルガンを習うと、音楽をもっと勉強したいと思うようになった。そして、すでに、東京音楽学校に入学していた永井幸次を追うように、明治26年に単身上京し、東京音楽学校の入学を目ざした。永井幸次はオルガン演奏が得意で、パイプオルガンのある本郷中央教会へ通っていたため、貞一も誘われ、そのパイプオルガンに魅せられた。パイプオルガンはカナダ製で、それを自費で導入したのは、オルガニストで初代聖歌隊長の英国人エドワード・ガントレット牧師であった。ガントレット牧師の妻は山田耕筈の長姉の恒で、この二人は国際結婚第一号の夫婦である。

貞一は、明治29年に東京音楽学校に入学した。成績優秀で、1歳年下の滝廉太郎（明治12年生まれ）と気が合ったという。明治33年に卒業した貞一は、その後、音楽学校の教師となり、明治38年に助教授となっている。その明治38年9月、神田区今川小路二丁目（現神田神保町）に東京音楽院^{*}が開設された。教授には貞一、山田耕筈などが在籍していた。貞一は忙しい中、毎週日曜日、休むことなく本郷中央教会へ赴きオルガニストを勤め、ガントレット牧師から、二代目の聖歌隊長に指名されている。また、明治44年には文部省小学唱歌教科書編纂委員に選ばれ、数々の唱歌の作曲をおこなった。大正2年には、唱歌「故郷」「朧月夜」「春の小川」「紅葉」「日の丸の旗」などを、同じく編纂委員であった作詞の高野辰之とコンビを組んでつくっている。その後、大正12年に東京音楽学校の教授となり、音楽指導者の育成に尽力し昭和7年に退官。そして、太平洋戦争開戦月の昭和16年12月29日に逝去した。

※私立の音楽学校。ほかに音楽遊戯協会（現学校法人三浦学園）、東洋音楽学校（現東京音楽大学）、女子音楽園（のち東京女子音楽学校と改め、昭和14年廃校）がある。

PHOTO

三人の集合写真

左：永井幸次、中央：岡野貞一、右：滝廉太郎
竹村忠孝 蔵

PHOTO

高野辰之 [1876-1947]
写真提供：高野辰之記念館

2. 明治の唱歌と日本語の語調

明治12年(1879)に文部省所属の音楽取調掛が設立され、小学校において唱歌教育がはじまった。「音楽取調ニ付見込書」が同年11月に提出され、「東西ニ洋ノ音楽ヲ折衷シテ新曲ヲ作ル事」「将来国楽ヲ興スベキ人物ヲ養成スル事」が書かれており、この項目が設立目的の一つとなった。つまり、東西二洋の音楽を折衷して新曲をつくること、もう一つは、将来国楽を興すべき人物を養成することである。このような目的から、西洋の曲に日本語をあてはめた唱歌がつくられていった。

日本語をあてはめた主な西洋の曲

明治前期	「蝶々」(ドイツ民謡)	「故郷の空」(スコットランド民謡)
	「蛍の光」(スコットランド民謡)	「灯台守」(イギリス民謡)
	「才女 <アニー・ローリー>」(スコット夫人作曲)	「埴生の宿」(ビショップ作曲)
	「庭の千草」(アイルランド民謡)	
明治中期	「旅愁」(オードウェイ作曲)	「ブラームスの子守唄」(ブラームス作曲)
	「故郷の廃家」(ヘイス作曲)	「野ばら」(ウェルナー作曲)
明治後期～大正初期	「ローレライ」(ジルヒャー作曲)	「星の界」(コンヴァース作曲)
		「冬の星座」(ヘイス作曲)

それら西洋の曲の多くは、元は賛美歌によるものであった。

3. 本郷中央教会と初代聖歌隊長エドワード・ガントレット夫妻

岡野貞一は本郷中央教会に通った。本郷中央教会は、明治24年(1891)に民間で初めてパイプオルガンの定期演奏会が行われた場所である。そのパイプオルガンは大変に大きいカナダ製で、布教師兼オルガニストとして赴任した英国人エドワード・ガントレットが導入したものであった。と同時に、ガントレットはこの教会の初代聖歌隊長として、賛美歌の普及と音楽教育の後進の育成に力を注いだ。東京音楽学校にパイプオルガンがなかったという明治半ばに、貞一、永井幸次、滝廉太郎、鳥崎赤太郎らはパイプオルガンを弾きに訪れた。

貞一は、岡山教会(日本キリスト教団)の時代から賛美歌に触れる機会が多かったため、この教会のパイプオルガンで讃美歌を難なく弾いたのであった。貞一にとって浮かぶ曲調は賛美歌がほとんどであり、ガントレットは二代目の聖歌隊長に実直な貞一を指名した。貞一は亡くなる昭和16年までこの教会でオルガニストを続けた。現在も貞一が弾いたリード・オルガンが保管されている。ちなみに、ガントレットの妻恒は、山田耕筰の一番上の姉であり、耕筰は9歳で父を亡くし、ガントレット夫妻に育てられた。耕筰もこの教会へ通い、貞一とは知友の関係になっている。

ガントレット夫妻
竹村忠孝 蔵

PHOTO

PHOTO

PHOTO

本郷中央教会（ポストカード）

岡野貞一が弾いた本郷中央教会のリード・オルガン

資料提供・撮影協力：本郷中央教会

4. 東京音楽院の教授に岡野貞一，山田耕筈ら

東京音楽学校を受験する若者が多くなり，その予備校としての役割を成した東京音楽院（校長は三宅雄次郎）が，明治38年（1905）9月，東京の神田区に開設された。明治41年には生徒数が150名余となり，教授陣は東京音楽学校の教授で「箱根八里」の作詞者鳥居枕をはじめ，唱歌・ヴァイオリンの指導に岡野貞一，独唱・和声学・チェロの指導に山田耕筈らが在籍した。

耕筈は「自伝 若き日の狂詩曲」で，次のように記している。

そのころ私は原田潤の紹介で，神田今川小路にあった，東京音楽院という学校で教鞭を執ることとした。そのころの私立音楽学校は，全部上野の予備校といった風のもので，天谷秀氏が経営していたこの東京音楽院と，山田源一郎氏の日本音楽学校と，鈴木米次郎氏の東洋音楽学校の三つがもっとも優れていた。殊に東京音楽院は上野への入学率三分の二という好成績を示して，断然トップを

切っており，それだけに相当内容も充実しておって，名誉院長には三宅雪嶺博士を担ぎ上げ，教師には，声楽に先輩原田潤，ほかにもロシアでヴァイオリンを学んで来た金須嘉之進や，岡野貞一氏などの名が並んでいた。

PHOTO

東京音楽院で教鞭を執っていた
ころの山田耕筈
前列左から：岡野貞一，原田潤
（日本人最初のバリトン歌手），
天谷秀，山田耕筈
竹村忠孝 蔵

5. 文部省小学唱歌教科書編纂委員,「故郷」「朧月夜」誕生

明治35年(1902)まで音楽の唱歌教科書は、文部省の検定を通った民間の教科書を使用していたが、教科書疑獄事件により明治政府は、教科書を国定にすることに決定した。文部省小学唱歌教科書編纂委員を集め、明治42年6月に第1回の会議が行われ、岡野貞一も小学唱歌教科書編纂委員の作曲委員の一人に選ばれた。作曲委員の主任は東京音楽学校の先輩で貞一と同じ本郷中央教会に通っていたクリスチャンの島崎赤太郎であった。作曲委員の仕事は、尋常小学読本から韻文を選び曲譜をつける。つまり、日本語の詩に日本人が曲をつけることであった。唱歌は、作詞委員が詩をつくり、一つの詩に三人の作曲委員が曲をつけ選考し発表するという仕組みであった。

滝廉太郎と共に、日本の詩に日本人が曲をつけるという楽曲を目ざした貞一にとって、それを実現できる絶好の機会であった。

作詞委員の一人に高野辰之がいたが、辰之の作詞に曲をつけた貞一の曲がことごとく選ばれた。小学唱歌教科書編纂委員になるまで交流がなかった二人は、意気が合うように辰之が詩を書き、貞一が曲をつけ、「2.」の項の「西洋音楽の音符に日本語をあてはめた明治時代の唱歌のスタイル」を変える「故郷」「朧月夜」など、数多くの作品が誕生した。

辰之は長野県中野市の農家に生まれ、師範学校を卒業後し国文学を志して上京するが職も無く苦学の日々を続け、文部省の国語教科書編纂委員嘱託、東京音楽学校の邦楽調査掛となり、文部省小学唱歌教科書編纂委員に選ばれた。辰之は語調を整え[※]、「日本の美しい国土を子供達に伝える」ことを志し作詞をした。

貞一は、幼少から賛美歌に触れていたことから賛美歌の曲調で作曲している。「故郷」を例に挙げると、讃美歌にみられるト長調で、変調版も賛美歌に多いヘ長調である。

このように、明治時代の唱歌は西洋音楽に日本語の詩をつけていたが、大正時代に入ると少なくなり、日本を意識した日本人による詩に、日本人が曲をつけて小学唱歌は発表されていった。日本の美しい国土を詠った詩に、賛美歌を元に曲づくりをした貞一の曲は、日本人の琴線に触れ、現代でも人々に愛され歌い継がれている。

※「故郷」…六四調、「朧月夜」…八六調、「春が来た」…五五調、「春の小川」「紅葉」…七七調

PHOTO

尋常小学唱歌 [1911-1914] に
掲載された「故郷」の楽譜
国立教育政策研究所教育図書館 蔵

故郷ふるさと

高野辰之

一 うさぎ追いしかの山

小鮒こぶな釣りしかの川

夢は今もめぐりて
忘れがたき故郷ふるさと

二 いかにいます父母
恙つつがなしや友がき

雨に風につけても

思いいずる故郷

三 ころろざしをはたして
いつの日にか帰らん

山はあおき故郷

水は清き故郷

朧月夜おぼろ

高野辰之

一 葉の花ばたけに 入り日薄うすれ

見わたす山のは かすみ深し

春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて におい淡あわし

二 里わの火影はかげも 森の色も

田中の小道を たどる人も

かわずの鳴く音ねも かねの音おとも
さながらかすめる おぼろ月夜

一 野うさぎを追ひ駆け遊んだ故郷のあの山、

小さい鮒を釣って魚釣りをした故郷のあの川。

今になっても子供の頃に遊んだ故郷の光景が夢として駆けめぐって蘇ってくる。
忘れる事のできない故郷の景色がある。

二 今、どうしているであろうか、故郷にいるお父さん、お母さん。

野山で遊んだ故郷にいる友達、相変わらずに元気であるだろうか。

雨が降っても、風が吹いても、
何かにつけて故郷を思い出す。

三 志を成し遂げるために、故郷を久しく離れ東京に出てきている。

いつの日になるかわからないが、その志を果たし、夢を実現して故郷に帰りたい。
山が青々としている、あの故郷へ、
澄んだ水が流れている、あの故郷へ。

高野辰之は26歳で上京し、文学博士になるまでは故郷に帰らないと誓った。そして、苦学の末、48歳の時（1925）に東京帝国大学から文学博士の学位を受け、志を果たし、ようやく故郷に帰った。東京での生活で故郷を思う心が「故郷」には込められている。

一 葉の花畑に夕陽が沈み、夕焼け空も薄暗い。

見渡すと、葉の花畑の遠くにある山々に霞が深くかかっている。

春風がそよそよと吹いていて、空を見たら、
夕方の空に霞がかかった淡い月がぼんやりと見え、
それがほんのりと美しくほのかに漂っている。

二 人里のある家々の灯りも、森の青々とした緑も、
田んぼの畦道を歩いていく人も、
蛙の鳴く声も、お寺の鐘の音も、
朧月夜が霞んでいるように、すべてが霞んでみえる。

おぼろ：ぼんやりとかすんでいるさま。

次回予告

※都合により、内容を一部変更する場合があります。

第3回 山田耕柞－①

- ◎エドワード・ガントレット夫妻に育てられた耕柞
- ◎ドイツ留学時に悩んだ「日本語の抑揚と旋律」
- ◎米国カーネギー・ホール演奏会、東洋人初の成功
- ◎耕柞と「赤とんぼ」三木露風

オカリナを使った授業実践

名古屋大谷高等学校教諭 大野 芳敬

オカリナの導入のきっかけ

今からさかのぼること17年前から、器楽指導でオカリナを導入することになった。導入のきっかけは、以前までアルトリコーダーで指導を行っていたが、毎年いざ始めてみると中学時代に持っていたであろうリコーダーを紛失してしまい、用意できない生徒がいることや、生徒間の演奏能力差が著しいことであった。

また、個人的な見解かもしれないが、樹脂製のリコーダーの音は、木製のリコーダーに比べ音が軽く、特にサミングの音は響きが浅いので、微妙に木製と比べるとアバウトに演奏している印象をうけた。また、「鳴り」というか音の遠達性の面でも大きな違いがあるのではないかと感じていた。

そこで生徒全員が一から始めることができるもの、楽器に愛着をもって接し、樹脂のリコーダーに代わるもので、もっと豊かな響きができる楽器がないかと思案していた。そんな折に、近隣で町おこしの一環でオカリナを盛んに取り上げている地域があると聞き、そこでオカリナを製作している工房を紹介していただき、現在に至っている。

オカリナの種類

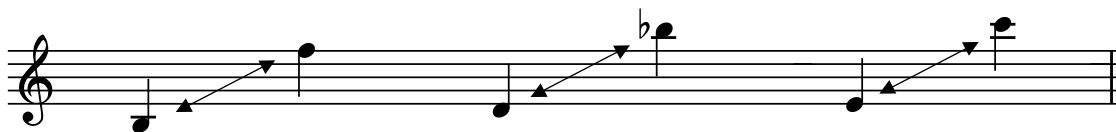
オカリナは音階や出せる音域によってC管、F管、G管と大きく3種類に分かれている。（本校はアルトC管を使用）

オカリナの名音域

アルトC管

ソプラノF管

ソプラノG管



使用楽器

現在、上記工房の3代目のモデルを使用。ウィンドウェイ、歌口の形状等がモデルチェンジされていて、現モデルは全音域にわたって安定感のある、響きの深い楽器になっている。



左から初代，2代目，3代目モデル

My オカリナができるまで

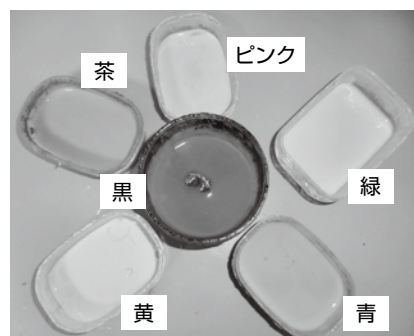
7月

素焼きのオカリナに下書き（鉛筆）
絵付け（水彩絵の具の筆や竹串を使う）
色釉薬はピンク、緑、青、黄、黒、茶）

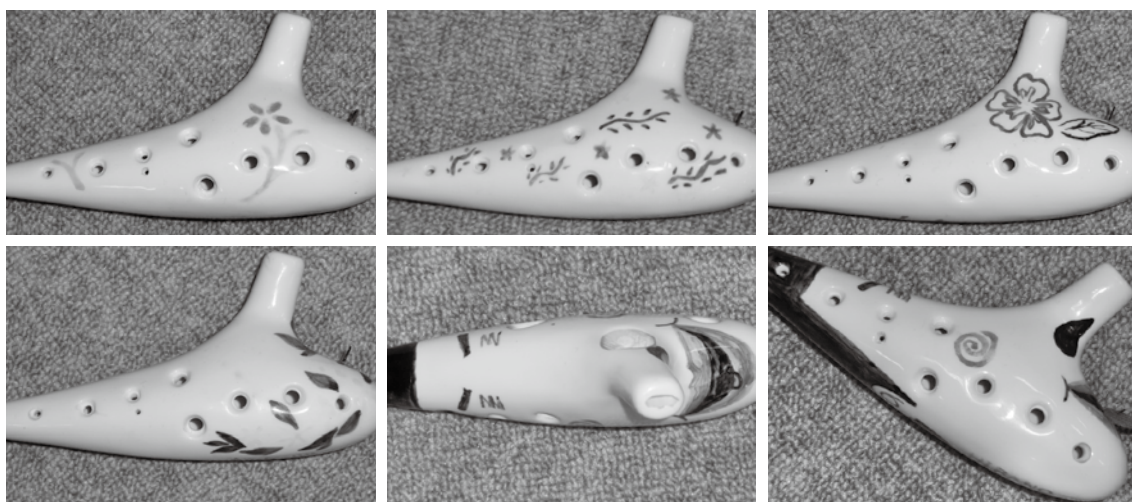
7月下旬

本焼き、ピッチ調整。（素焼き時に事前に小さめに開けておいたトーンホール、調整穴を1音ずつ削ってピッチ調整する）

9月初旬



生徒作品



地の白を基調としたデザインが基本。あまり広い範囲を塗ると本焼き後の仕上がりが斑になってしまうので、注意が必要。

オカリナの指導について

オカリナは陶器ならではの奥深く柔らかい音色だが、息遣い一つで音色が変化する。しかも楽器一つ一つに個性があるため、それぞれの楽器に合わせた息遣いを覚えなければならないのが少々難しいところだが、自然素材を用いた手作りの本物の楽器であるなら当然の性質ばかりである。また吹き込んでいくうちに徐々に楽器が鳴るようになっていくのも魅力の一つといえる。

基本的にオカリナは歌口付近の構造がリコーダーとほぼ同じなので、音を出しやすい楽器であり、息の遣い方の指導はリコーダーとよく似ている。運指はリコーダーと比較して容易であり、リコーダーのサミング時の運指や息のコントロールの指導がない分、すぐ楽器に親しむことができる利点がある。

授業内容については1学期にギターを単音でメロディーを弾くことを実践しているので、その練習曲プリントを使用している。具体的にはC～Gの5度の音域から始めて徐々に音域を広げていくような練習内容になっており、マザーグースや童謡、唱歌を取り上げている。また、2学期の最後にはデュエットで「聖者の行進」。3学期には“ゆず”の「栄光の架け橋」を取り上げ、グループを組ませてオカリナのデュエットとギターによる合奏を行っている。

音楽鑑賞用 DVD

オーケストラ入門

Guide to the Orchestra

- ♣ 世界が注目する若きマエストロ、アラン・ギルバートのリハーサルを収録
- ♣ オーケストラの歴史や楽器の紹介等、音楽鑑賞教育授業に役立つアイテムを収録
- ♣ ライブラリアンやステージマネージャーの仕事も紹介
- ♣ 協奏曲や大編成オーケストラ等、オーケストラの魅力が満載

✧ 収録内容 ✧

◆オーケストラの歴史（約4分）

ハイドンとモーツァルト／2管編成のオーケストラ／小編成から大編成のオーケストラへ

紹介曲…交響曲第35番ニ長調 K.385「ハフナー」から（モーツァルト作曲）

◆オーケストラで使用される主な楽器（約21分）

木管楽器／金管楽器／打楽器／ハープ／弦楽器

紹介曲…交響組曲「シェエラザード」作品35第2楽章（リムスキー・コルサコフ作曲）シャルル・デュトワ指揮／NHK交響楽団

◆ステージに上がるまで（約23分）

リハーサルから本番まで

紹介曲…交響曲第3番変ホ長調作品55「英雄」第1楽章（ベートーヴェン作曲）アラン・ギルバート指揮／NHK交響楽団

◆協奏曲—ソリストと共演するオーケストラ（約12分）

紹介曲…ピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18第3楽章（ラフマニノフ作曲）イム・ドンヒョク（ピアノ）／シャルル・デュトワ指揮／NHK交響楽団

◆大編成の管弦楽曲（約13分）

紹介曲…交響詩「英雄の生涯」作品40から抜粋（リヒャルト・シュトラウス作曲）シャルル・デュトワ指揮／NHK交響楽団



定価：本体 17,000 円 + (税)

全 1 巻／約 72 分／解説書（A5 変型判 12p）付

監修：池辺晋一郎（作曲家／東京音楽大学教授）

協力：NHK 交響楽団

資料協力：武蔵野音楽大学楽器博物館、音楽之友社

発行：NHK エンタープライズ

発売元：教育出版株式会社 TEL 03-3238-6908

編集部からのお知らせとお願い

高等学校教科書『音楽Ⅱ Tutti』『高校音楽Ⅱ Music View』の下記の箇所に訂正がございます。また、『音楽Ⅱ Tutti』は教師用指導書におきましても関連修正がございます。誠に恐縮ではございますが、ご指導の際にはご配慮くださいますようお願い申し上げます。

●音楽Ⅱ Tutti

ページ	行・箇所	原文	訂正文
72	1段4小節目 歌詞2行目	too ex - <u>tream</u> .	too ex - <u>treme</u> .

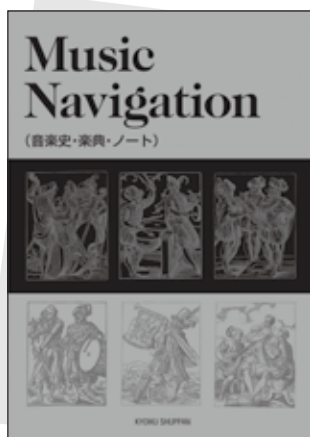
●音楽Ⅱ Tutti 教授資料 伴奏編

ページ	行・箇所	原文	訂正文
118	2段4小節目 歌詞2行目	too ex - <u>tream</u> .	too ex - <u>treme</u> .

●高校音楽Ⅱ Music View

ページ	行・箇所	原文	訂正文
3	12行目	松の緑～ ^{ぜんだん} 前弾～	松の緑～ ^{まえびき} 前弾～

Music Navigation



1 音楽史，楽典の内容を高校教科書の内容にあわせて大幅改訂しました。

2 あらたに「ソルフェージュ」「スコアの読み方」「新曲視唱」を掲載しました。

3 オーケストラの変遷がビジュアルによって理解できます。

4 五線紙や鑑賞の記録，メモ帳も充実していますので，学習の記録を残すことができます。

B5判 136ページ／別冊解答 付／本体552円＋税



第15回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2017年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2017年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前
回
入
選
作
品



ツバメに借家

去年から、うちの外灯の上にツバメが巣を作るようになりました。実はツバメが下見に来た時、巣を作らせないようにビニールをかぶせました。しかし、新聞で「都市部のツバメの子育て受難」の記事を読み、ビニールをはずしました。ふんで玄関が汚れないように外灯にラップをかけ、下にカゴをつけ、新聞紙をひいて受け入れました。ヒナの成長を観察、見守ることができてとても幸せな気分になりました。

中学・高校音楽通信 **Spire_m** (2017年 春号) 2017年3月31日 発行

表紙写真協力: 株式会社ナガオカ

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 山崎富士雄
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 03-3238-6864 (内容について)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411